

# 平成28年12月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

## ◎ 個人質問

8番 藤原 浩司

### 1. 死亡届時の窓口での相談等について

- ①過去に死亡届を出された方が、そのとき窓口で何らかの相談をされた経緯があるのか伺う。
- ②どのような相談であったか、また相談件数が多かったのはどのような相談であったか伺う。
- ③今後も様々な相談を的確に答える事はできるのか伺う。

### 2. 市民病院について

- ①今年度の目玉的な事業は何であったか伺う。
- ②昨今、病院事業の成果がなかなか上がらない中、来年度はどのような事業展開をされるのか伺う。
- ③産科、小児科を充実して頂きたいと思うが、今後どうされるのか伺う。

20番 森本 典夫

### 1. 災害等の有事の際、弱者と言われる避難者の掌握状況と避難方法が確立されているかについて

災害等の有事の際、ひとり暮らしの高齢者、寝たきりの人、認知症の人、常時車いすでの生活者など弱者と言われる方々の避難者の掌握は、どこの誰がどう掌握し、それらを各地域の関係者の中でどのように認識されていますか。

また、これらの方々が避難するときの安全な避難方法は、各地域で確立されていますか。

## 2. 「部活動」と「いじめ」の傾向と対策について

1) いま全国的に問題になっている「部活動」について、市はどう認識していますか。

市内の中学校での問題点を正確に把握し、的確な対策を講じることが求められますが、井原市内の中学校での問題点の傾向とそれに対する対策をどう考えていますか。

2) いま全国的に問題になっている「いじめ」について、市はどう認識していますか。

市内の小学校・中学校・市立高校の実情を正確に把握し、的確な対策を講じることが求められますが、井原市の傾向と対策をどう考えていますか。

## 3. 環境の改善や自然保護の対策について

環境の改善や自然保護に関する次の3点について、市の対策をお尋ねします。

①家屋が密集している地域で、家庭ごみを焼却炉や空き地で燃やすことにより、焼却灰の飛散や悪臭に悩まされているようですが、これの対策について。

②井原市では3Rを進めていますが、資源ごみを収集日以外の日に出している現状があります。市の職員が一定期間集積所を見て回り、強力的に指導する必要があるのではないですか。

③岡山県の「自然との共生おかやま戦略」における行動計画に基づいて、県と連携を強め、市として野生動植物の保護や多様な生物が生息・生育できる環境保全対策を強めるべきではないですか。

#### 4. スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害状況の把握と被害防止対策の指導強化について

今年のスクミリンゴガイの被害は、昨年より地域が広がり、農家を泣かせ困惑させています。

各地の被害状況の把握と、市として各農家に対する系統的な指導をされてきたのか。また、今後、被害を最小限に抑える対策をどうとられますか。

#### 5. 市民の安全確保のため、早期にカーブミラーの総点検を行い、早急な補修や更新をすることについて

市内には、交差点などで見通しが悪く危険箇所と思われる場所に、多くのカーブミラーが設置されています。

しかし、このカーブミラーの反射面が白く濁り、写りが悪くなってミラーの役割を果たしていないものや、支柱が斜めになって見たいところが良く見えないなどという欠陥ミラーがあります。

早期にカーブミラーの総点検を行い、早急な補修や更新をし、市民の安全を確保してはどうですか。

2番 河合 謙治

#### 1. 市民参加・協働自治を進めるしくみづくりについて

井原市第6次総合計画後期基本計画において、基本目標6「“My”意識でみんながつくるまち」の中に、市民参加・協働自治を進めるしくみづくりがあります。

その現状と課題として、「近年、少子高齢社会の進展などを背景として、コミュニティの弱体化、農地や自然の荒廃による農村の衰退など、様々な問題が深刻化しています。また、増大する地域課題を克服しながら多様化する市民ニーズに対応するためには、各分野において市民・地域・団体・事業者・行政が協働し、それぞれが主体的にまちづくりを担うことができるしくみが必要です。

本市では、将来の子どもたちへ誇りを持って引き継ぐことができるまちをつくるため、「パートナーシップ・プロジェクト事業」の推進をはじめ、市民活動

支援の拠点となる市民活動センター「つどえ〜る」の機能の充実に努めていますが、今後更に「協働」の取組を具体化していくことが求められています。

こうした中、市内各地区に「地区まちづくり協議会」等が設立され、地域でのまちづくりの推進体制が整いつつあり、今後は、地域住民が主体的にまちづくりに取り組めるよう、しくみづくりを進める必要があります。」と掲げられています。

そこで、

①「各分野において市民・地域・団体・事業者・行政が協働し、それぞれが主体的にまちづくりを担うことができるしくみ」とはどのようなしくみなのか伺います。

②「「協働」の取組を具体化していく」とはどのような取組なのか伺います。

③「地域住民が主体的にまちづくりに取り組めるよう、しくみづくりを進める」とはどのようなしくみなのか伺います。

## 2. 街灯について

街灯とは、道路等公共用地や共有地などを照らすために設置された明かりのことです。

また、街灯には街路灯、防犯灯があり、街路灯のなかには、道路照明と都市照明があります。

そこで、

①道路照明と都市照明、防犯灯の用途と見分け方について伺います。

②道路照明と都市照明、防犯灯の管理者の違いについて伺います。

1 番 西村 慎次郎

## 1. 井原市スポーツ推進計画の実施状況について

スポーツは、健全な心身の発達を促し、また日常生活に活気があふれ生きが

いとなる重要な役割を果たしています。

井原市においては、平成26年3月に平成26年度から平成29年度までを計画期間とする「井原市スポーツ推進計画」が策定され、「生涯スポーツの推進」「競技スポーツの推進」「健康づくり・体力づくり・仲間づくりとしてのスポーツの推進」という3つの柱で、現在までスポーツの推進をされてきました。

そこで、井原市スポーツ推進計画の実施状況について伺います。

6番 三宅 文雄

1. 井原市地域活性化イベント補助金について

地域活性化イベント補助金の制度の内容及び今日までの実績、今後の方向性について伺います。

2. ごみ集積所の施設整備について

ごみ集積所の施設整備の進捗状況及び今後の方針について伺います。

13番 大滝 文則

1. 市長就任後10年を経過した現在の井原市政への思いについて

早いもので、合併後まもなく12年を迎えようとしています。瀧本市長は、「芳井町長として合併の責任の一端を担い、合併によって失職した後も市政に対する熱い思いを持ち続けていた。市民の幸せやふるさとの発展に粉骨砕身したい」との決意から立候補され、見事当選されました。そして、その後も当選を重ねられて、早や10年が経過しました。

そこで、お尋ねします。

市長が思い描かれていた新井原市の構想は、どの程度進んでいると認識されているのか。様々な行政課題に取り組んで来られた中で、初当選された時に選挙公報や新聞等で市長が示されていた、五つの約束プラス二つの約束について、現在までの進捗率をどのように思われているか伺います。

まず、大きくは二つの約束から

①井原市民病院の抜本的刷新について

②行政サービス改革について

そして、次の五つの約束から

①女性の視点を取り入れた市政の推進について

②協働のまちづくりの推進について

③笑顔あふれる地域づくりへの取り組みについて

④新市将来構想・建設計画の実行実現について

⑤農林業・商工業の振興について

以上の取り組みについて、当初市長が思い描かれていた新井原市の構想ほどの程度進んでいるとお考えか伺います。

## 2. 農林業・商工業への取り組みについて

日本の農業においては、様々な問題・課題が山積しています。特に中山間地が多くを占める井原市においては、圃場が零細であり、また分散しているために非効率であり、一部の経営体を除いて収益性が悪い、つまり儲からない農業となっていることに伴って多くの問題が発生しているとの考え方があります。

これは、労働の割に収入が少ないと、後継者が少なくなり農業従事者は高齢化して後継者不足となり、その結果として耕作放棄地は増加し、有害鳥獣も増加するといった問題が連鎖的に生まれ、負のスパイラルに入っている状況であるという考え方であり、私もほぼ同じ考えです。

そうした中、その対策としてこれまでも国・県・市一体となって様々な施策を行ってきたところではありますが、抜本的な問題解決はできていないというのが現状です。

様々な問題・課題がありますが、二つの施策に絞り質問いたします。

### 1) ワイン特区について

小泉内閣時代に経済成長を促進させる目的で「構造改革特区制度」が施行され、その中の一つにワインを作りやすくするための「ワイン特区」制度があります。井原市でも「ぶどうの里井原ワイン特区」及び「備後ワイン・リキュール特区」に本年認定されたところではありますが、この「ワイン特区」への取り組みについて、現状と今後の展開をどのように考えられているのか伺います。

## 2) 有害鳥獣対策について

本年は市内のあちらこちらで、猪をはじめとする有害鳥獣による農作物、また圃場への被害の拡大の声を聞きました。有害鳥獣対策については、これまでも多くの議員がたびたび質問され議論されてきましたが、抜本的な解決には程遠いという状況です。主な対策としては、追い払いと駆除があり、それぞれの対策を行ってきましたが、これまで行ってきた施策では問題解決には至らないという現状を見ると、状況を改善するためにはどのような課題があると認識されているのか伺います。

また、その改善策として、井原市としては現行の制度を含めて今後どのような施策を考えられていくのか。ハンターの養成も含め、猟友会及び駆除班との連携はどのように考えられているのか伺います。

5番 惣台 己吉

## 1. 市税の状況について

昨年の12月議会においては、地方交付税のことについて伺いました。合併算定がえの特例期間が終了し、平成27年度から段階的に減少していくとの回答でありました。

井原市一般会計歳入割合の1番目を占める地方交付税に続き、このたびは2番目の市税について伺います。

決算状況を見てみると、市税は、平成19年度の51億円台をピークに、平成27年度まで増減を繰り返しながら45億円台に減少しています。

また、一般会計歳入の決算における市税の割合は、平成26年度で21.6%、平成27年度で22.6%となっています。

そこで、本年度の市税収入について、現時点で、どれくらいを見込んでいるのか、また、どのような課題があり、どのように対応しようと考えているのか伺います。

## 1. 空家等対策の推進に関する特別措置法の施行後の本市の対応について

空家等対策の推進に関する特別措置法が平成26年11月27日に公布されました。同法によると市町村は、国の基本指針に即した空家等対策計画の策定（6条）及び実施に関する協議を行う協議会を組織することがうたわれています（7条）。また、空家等のデータベースの整備等を行うよう努力とあります（11条）。県内では、平成27年度に岡山市が、平成28年度には津山市・新見市・美咲町が計画策定に取り組まれています。同法に対する本市の取り組み状況と今後の対応について伺います。

## 2. 高齢者の自動車事故抑制に向けた本市の取り組みについて

認知症の疑いがある高齢者ドライバーが小学生の列に飛び込み、子どもが亡くなる痛ましい事故や、高齢者の運転ミスによる事故が多発しています。また、今後団塊世代の高齢ドライバーが急増する状況下で、今まで以上に事故抑制に向けた取り組みが必要となると考えます。警察と協賛団体による「おかやま愛カード」の取り組みにより、高齢者ドライバーからの運転免許の返納を進めています。しかし、本市は中山間地が多い地域のため、日常生活に欠かせないのが運転免許です。しかし、不幸にも事故で加害者になった場合には、被害者はもとより加害者本人や家族にも多大な肉体的、精神的負担が生じることを考えるとき、高齢者ドライバーの事故抑制に対する意識付けが今まで以上に必要と考えますが、現状の高齢者の自動車事故防止に向けた取り組みと今後の対策について伺います。

## 3. 胃がんリスクを判断するABC検査の費用助成制度の導入について

井原市第6次総合計画後期基本計画で平成29年度の胃がん検診受診率の目標は50%となっていますが、平成24年時の状況は15.7%です。その他の肺がんや大腸がん、乳がんの検診受診率も目標に対しては厳しい状況にあると考えます。そうした中、胃がんのリスクを判断するABC検査は、自己の胃がんのリスクを知ることや胃がんの知識を深めることで、将来的に検診を受診する動機付けに効果があると考えます。また、最近では、ピロリ菌に対する報

道も多くなり、除菌によりがん予防をする人も増えているように聞きます。そこで、医師会と協議のうえで、胃がん検診受診率アップに繋げる取り組みとして、ABC検査の費用助成制度の導入を考えてはどうか伺います。

19番 藤原 清和

#### 1. 犬の糞の放置対策について

一般道路の脇や農道・堤防の側面等に放置された犬の糞による害をなくするための対策について、すでに岡山県内においても早くから取り組みをされている市もあります。岡山市では、11月から試験的にモデル地区を指定して、飼い主のマナーアップを図り、市民からの苦情が多い糞害を減らす狙いで、飼い犬の糞が放置された場所に警告カードを置く「イエローカード作戦」が導入されました。

井原市においても、市民の声を聴く会や会合の席で糞の放置はどうにかならないかという声を聴いています。糞の放置をなくす対策についてのお考えを伺います。

#### 2. 指定ごみ袋への広告掲載の取り組みについて

井原市指定ごみ袋への協賛広告主を募集し、指定ごみ袋へ事業所や企業の広告を掲載してはと思いますが、お考えを伺います。

7番 坊野 公治

#### 1. 児童・生徒数減少による今後の学校のあり方について

現在、年間の出生数が200人前後となり、今後、児童・生徒数は、急速に減少していくと考えられます。そこで、今後の学校のあり方について伺います。

①学校間の交流授業の現在の取り組みと、今後の計画について伺います。

②教育特区制度を取り入れてはどうか伺います。

## 2. 高校生のキャリア教育について

市内の高校に通う高校生に、海外留学・ホームステイなどをさせてはどうか伺います。

## 3. 南海トラフ地震を想定した消防団の訓練について

30年以内に70%の確率で南海トラフ地震が起こると予測されています。井原市においても最大震度6弱になると予測され、多くの建物の倒壊が予測されます。そこで、倒壊した建物から人命を救助するため、チェーンソーなどを使った訓練を消防団で行ってはどうか伺います。